2019 年 7 月 28 日 マルコ福音書 2:1-12 黄昌性牧師

聖書の世界は神への礼拝そのものである。人の子であるイエス・キリストをマルコ福音書は、救い主キリストの特性を強調して、神の子であり人の子であるイエス・キリストとして記録している。イエス様は「人であるのにこれができる」、「人であるのにあれをする」とイエスス・キリストを判断する律法学者とキリストにおける物語の展開を見ることができる。マルコ福音書を読み進める中で見ることのできる人の子イエス・キリストの姿の一部は次のとおりである。1:21 カファルナウムに入られるイエス様、そこで汚れた霊に取りつかれた男を癒し、29 節において死の病に伏していたシモンの姑をシモンの家で癒すことが描かれている。その後にガリラヤの会堂におられたとき、らい病を患っている病人を癒された（「御心ならば私を清くすることがおできになります(40 節)」）。そして 2:1-12 においてイエス様は中風の患者を癒された。病と罪には関係があることが多く、キリストがこの地上に現れたのは我々の罪ゆえであった。人間は得てして自分で聖書の言葉を解釈してしまう。らい病という病名を、その症状が変わらないのにも関わらず、和訳が 3 つある。「らい病」、「重い皮膚病」そして「律法の規定の中にある病(最近出版された聖書の訳)」である。木を見ず森を見る、という言葉があるが、人は木である自分ばかりを見る。人は生まれながらに罪人だからである。その罪人のためにイエス・キリストがあらわれてくださり救いの御手を差し伸べてくださるのであるから我々は森を見、全体を知るべきなのである。汚れた霊に取りつかれた男の癒し→シモンの姑の病の癒し→らい病の癒し→中

風（全身麻痺）の人の癒しという一連の出来事を文化に沿って一つ一つ解釈する。いずれにしても病の内にある人々に必要なのは迅速な癒しである。今朝の中風の患者を床に寝かせて連れてきた男性４人は、イエス・キリストがいる家にあまりにも人が大勢いて中風患者をイエス・キリストのもとに連れていくことができないため、非常識な方法をもって何とかしてイエス・キリストに近づこうと考えた。この出来事については、マタイ９：2-８およびルカ５：17-26 にも同様の記録がある。マルコ２：１「数日後」、イエス様はカファルナウムからガリラヤへ行かれた。イエス様はガリラヤで、神の国の福音、御言葉を伝えておられたのである(マルコ 1:14-15)。神の国が近づいた、悔い改めよ。と語っておられたのである。その後カファルナウムに行きある人の家に入ると、イエス様のはなされる神の国の話を聞きに大勢の人がその家に押し掛けてきた。そこへ中風の人を床に寝かせて４人の男がイエス様のもとに来た。男たちは「イエスのおられる辺りの屋根をはがして穴をあけ、病人の寝ている床をつり降ろした(4 節)」のである。彼らは、イエス様の言葉を聞くため、また癒していただくためにはそのようにしなくてはならなかったのである。中風の人を連れてきた男の人達は中風で苦しんでいる人を助けたい一心であり、彼らのこの一連の行いのベースとなる規則は「イエス様のところに行く」ということであった。人の家の屋根をはがして穴をあけ、人を床に寝かせたまま穴から釣り下ろす、などという行動はとんでもないことである。しかし、神様からご覧になる「人の罪」の方がどれだけとんでもないものであろうか。４人の男たちは、イエス・キリストが語られた旧約聖書コヘレト

の言葉４：12「ひとりが攻められれば、ふたりでこれに対する。三つよりの糸は切れにくい。」から知恵を受け、病に苦しむ友人を見たのである。イエス・キリストによる業は、マルコ福音書１：16 でペトロたちに声をかけ「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう(17 節)」と言われた出来事から、汚れた霊に取りつかれた男を癒され（25 節)、シモンの姑の病を癒し（31 節)、そしてらい病の人を癒され(41 節)、今中風の人が癒された出来事まで、共通点をもってつながっている。それは「信仰」と「服従」である。彼らはイエス・キリストを信頼し、従ったのである。「対象の継続性」というものがある。まずぬいぐるみをみせ、そのぬいぐるみを箱の中に入れて隠す。それを見る側はぬいぐるみが実際に目に見えなくても箱の中に「ある」と認識することを対象の継続性という。中風の友を連れてきた４人の男たちは、イエス様を実際に見なくても「イエス・キリストの癒し」を見ていた。目の前の障害の有無にかかわらず、「箱の中に隠されているキリストの癒し」を彼らは見ていたのである。それゆえ、イエス様は彼らの屋根をはがすという行いを信仰と言われたのである。イエス・キリストの道に入るには導き出される（Exodus）必要がある。神と聖霊を見出し、目の前の問題にとらわれる自分、我々で言えば、同じく礼拝の場に他の人がいるという、目に見えるいわば障壁にとらわれている自分を知ることである。４人の男の人たちはともに祈り、賛美し、イエス・キリストの癒しを必要とする友をキリストの前に連れていくためにともに屋根をはがして友をつり下ろした。発想の転換、逆転の発想と言えよう。一般の世界と礼拝の世界は同様ではない。それはなぜであろ

うか。それは、礼拝にはキリスト、聖霊が伴われるからである。イエス・キリストに委ねていたため男たちは屋根をはがし中風の友の床をつり下ろした。救いの恵みを得るには救いの道に入ることである。「子よ、あなたの罪は赦される」(5 節)という、病に苦しむ人へのイエス・キリストの言葉の意味を律法学者は理解できなかった。また、イエス・キリストが人の罪を赦すことを理解せず、神を冒涜していると言ったのである。病と罪とは往々にして相互関係があると言える。罪の結果ではない病もあろう。しかし、病にあるとき罪にまみれていると言えるのである。イエス・キリストが罪を赦し、病を癒される神であることを理解しなくてはならない。マタイ 9：5『あなたの罪は赦される』とあるが、すでにあなたの罪が赦されている＝Forgiven、救われている、とイエス様は罪との関連性を示唆しつつ病の癒しを宣言されている。ここに救いの順序を我々は見る。エフェソ 2：8「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。 」恵みが先行しているのである。ペトロがイエス様を「あなたは神の子です」と告白したように、イエス・キリストの恵みに対する信仰の告白を絶えずすることである。4 人の男たちは中風の人をイエス様のところに連れてきた。このことこそ、信仰の告白である。イエス・キリストは人であったのに、どうやって人が人の罪を赦すことができるのかという疑問があるかもしれない。イエス・キリストは神の子である。神の子として神によって与えられた罪を赦す権威をもって人の罪を赦されるのである。「人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを知らせよう。(マルコ 2：10)」こ

れはまさに神様の奥義である。我々はその神様をそのまま信じ受け入れればよいのである。「その人は起き上がり、すぐに床を担いで、皆の見ている前を出て行った。人々は皆驚き、「このようなことは、今まで見たことがない」と言って、神を賛美した。(12 節)」箱の中に入っている物体は目には見えない。しかし、その物体は確かに箱の中に入っているのである。プラトンは言った。洞窟の中にいる人が洞窟の中に差し込んだ一筋の光を真の光であると認識するが、その光は洞窟の外にいる他の人が見れば真の光ではない。洞窟の外に出て真の光を見るべきである、と。事物は正しく捉えなくてはならない。イエス・キリストと共にいるならば罪の問題は解決する。これは奇跡であろうか。否、奇跡ではなくイエス・キリストにおける真実である。イエス・キリストが自ら十字架の死をもって我々の罪を赦してくださったである。病の癒しと罪の赦しにはキリストの救いが伴っており、我々はその事実にただ信頼すべきなのである。人の罪を赦す権威を持つイエス・キリストを霊と真理をもって礼拝する一週間でありたい。